

## 明治年間発行の西洋建築雛形書にみる洋風意匠の受容過程に関する研究

### —近世・近代木割書と舶載パターンブックとの比較を通して—

A Study in the process of reception of the Western style design illustrated in the western architectural books published in Meiji period – to compare with the Kiwari-sho in Edo & Meiji period and the pattern books from overseas –

北海道大学・大学院工学研究院・助教 池上 重康

#### 1. はじめに

近代日本における洋風建築の導入過程については、「お雇い外国人建築家の指導」や「日本人大工棟梁による見よう見まねの擬洋風建築」を、その導入形態とする概念が定型化しつつあった<sup>1</sup>が、筆者は、明治初期の中央官庁において舶載パターンブックの参照と習得がその一端を担っていたことを明らかにした<sup>2</sup>。しかし、明治中期以降に日本全国に広く受けられていった洋風建築の装飾のルーツあるいは伝播の過程については未解明なままでいた。近世木割書（絵様）の中に、明治期の「擬洋風」と称される建築の細部意匠との類似性があることは、これまで様々な場面で指摘されてきた<sup>3</sup>し、明治中後期出版の建築雛形書の中から特に全体意匠を描写したものを対象に、大工棟梁による洋風意匠の理解を考察した研究<sup>4</sup>もある。また、規矩という技術的側面から、近世と近代の関連を読み解こうとする研究はこれまでもあった<sup>5</sup>が、意匠的側面からの考察は未だ試みられていない。本研究では、近世絵様、舶載パターンブック、明治期刊行建築雛形書に掲載の全体および細部意匠の比較を通して、近世までに培われた建築装飾に、欧米のそれがどのように取捨選択され、受容・融合していったのか、その過程を明らかにすることを目的とする。

#### 2. 明治年間発行の洋風建築雛形書

明治年間発行の洋風意匠を含む建築雛形書は『西洋家作雛形』<sup>6</sup>を嚆矢として多数ある。研究にあたり、国立国会図書館、国立公文書館、日本建築学会がそれぞれ所蔵する建築雛形書を全冊閲覧し、洋風意匠を含むものを抽出し、擬洋風よりも端正な洋風意匠をより多く含む以下の4冊を考察対象とした。

- ・秋田弥左衛門『西洋技術新撰大工雛形』（東崖堂、明治22年）
- ・石井卯三郎、泉幸次郎『新撰大匠雛形大全』五、六巻（田中宗栄堂、明治30年）
- ・吉原米次郎『木造洋館雛形集』（建築書院、明治30年）
- ・三橋四郎編纂『木造洋館詳細雛形集』（高橋仁太郎、明治33年）

#### 3. 建築雛形書にみる洋風意匠

##### 3-1 秋田弥左衛門『西洋技術新撰大工雛形』

21枚の図版で構成され、10枚の門、門柱、塀、1枚の煉瓦造アーチ、4枚の小屋組、破風板、西洋風鬼板、3枚の階段詳細、西洋風六角堂の図を掲載する。「西洋技術」と題しながらも、冠木門や塀重門の図版があり、「西洋風門柱頭」（図1）と題した図には和風の轆轤挽き繰り型を掲載するなど、擬洋風の範疇を超えない図版が過半を占める。近世以来の絵様のうち「見よう」によっては洋風と

も見做し得る図版を描いたのであろう。しかしながら、「西洋風家根妻之図」(図2)の破風飾りは米国風のバージボードを模写したような正確さが見られる。一方で、棟飾りや懸魚は単線で描かれており、完全に洋風意匠を理解しているとは考え難い。過渡的な洋風建築雛形書と位置づけよう。

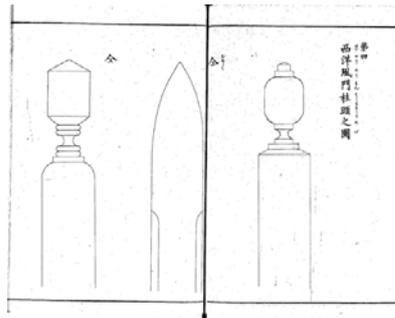


図1 「西洋風門柱頭之図」

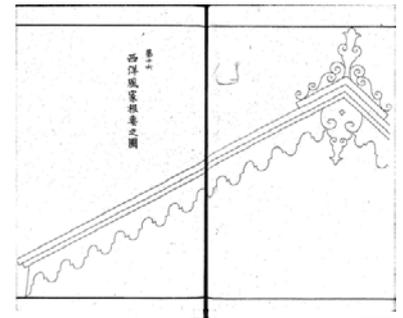


図2 「西洋風家根妻之図」

### 3-2 石井卯三郎、泉幸次郎『新撰大匠雛形大全』

初版は近世の出版であるが、明治時代に増補となった五巻と六巻に洋風意匠を収録し、「西洋建築雛形」の副題を付す。各巻20丁からなり、掲載図版は、玄関入母屋造、西洋造二階建、同小屋組、倉庫煉瓦造、同小屋断面、西洋門金物、欄間、西洋窓及断面、軒廻、六角早割、同平家建、西洋小屋軒廻、小屋鉄物、軒飾、西洋戸、足円、架木割、硝子板寸法、窓鉄棒組方、鉄板及洋釘寸法書、天井蛇腹、手すり引物、西洋門及鉄柵、唐破風円割、楕円割方、西洋筋壁、窓金物、西洋段階子断面、額縁面仕様、木柵、煙突である。前掲書

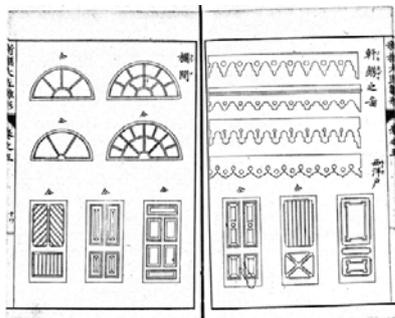


図3 「軒鋸之図」

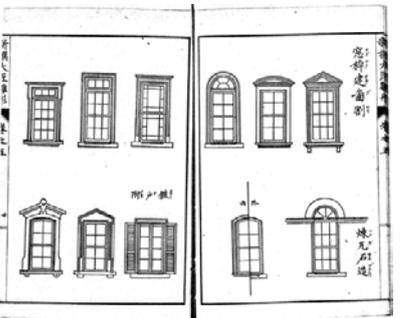


図4 「窓枠建図割」

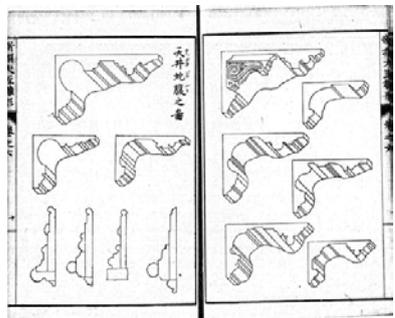


図5 「天井蛇腹之図」

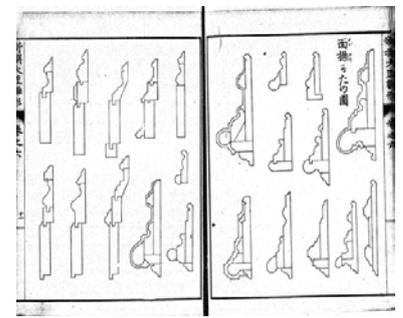


図6 「面操可たの図」

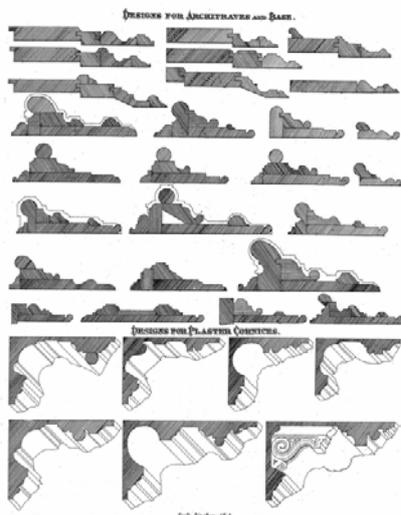


図7 'Designs for architraves and base'

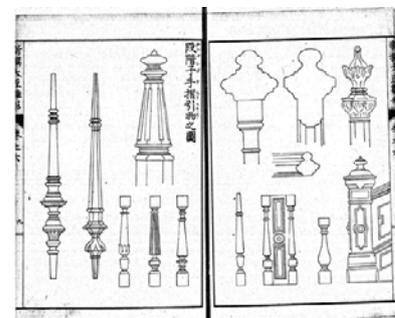


図8 「段階子手摺引物之図」

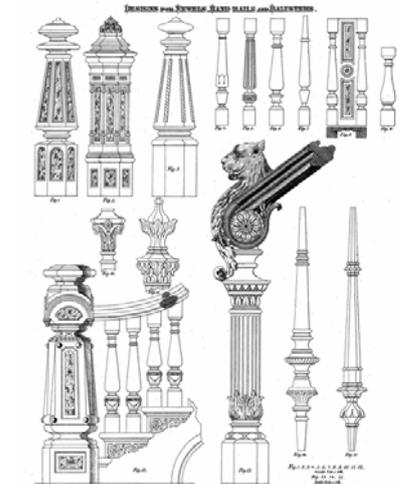


図9 'Designs for newels, hand-rails and balusters'

と同様、全く洋風意匠ではない図版がいくつか含まれる。特に入母屋造は檼掛の欄間が入る純和風建築である。塀重門にも見られる檼掛を洋風意匠と理解していたということなのかもしれない。事実、伝統的な塀重門や冠木門が「西洋門」として掲載されている。また、軒飾り（図3）や窓枠（図4）は舶載パターンブックを模写したようにも見て取れるが、描線が稚拙であるため推測の域を出ない。天井蛇腹（図5）と面線形（図6）はBicknell, *Detail, cottage and constructive architecture*.からの転載（図7）である。階段親柱や手摺子（図8）も描線は稚拙であるものの、同じくBicknellのパターンブック（図9）からの引用であると判断できる。しかしながら、親柱頭装飾を擬宝珠風に描いたり、手摺子下部装飾を蓮状に反りを描く辺りに近世絵様からの洋風意匠の理解を感じ取らずにいられない。いずれにせよ、著者の石井あるいは泉が、舶載パターンブックを入手していた、あるいは閲覧できた状況にあったことは疑いない。

### 3-3 吉原米次郎『木造洋館雛形集』

著者の吉原米次郎は明治元年香川県の生まれで、明治21年上京し建築学を学んでいたところ、偶々滝大吉<sup>7</sup>より大阪の工業夜学校のための『建築学講義録』<sup>8</sup>の発行を囑託され、学を断ち、明治24年に建築書院を創業した<sup>9</sup>。序文によると「抑々洋風家屋建築に関する邦文の書籍発刊せられたるもの二三ありとす。然りと雖とも初学者の階梯とすべき洋風家屋建築図集の如きは太た稀にして、是れ吾人の常に遺憾とするところなり。本院聊か茲に感ずるなり。図集発行の第一着手とし、初学者をして木造洋風建築の計画をなすに当り、其内外部装飾上の一斑を知得し、其応用に便とせんか為め、一書を編し名つけて木造洋館雛形集と云ふ。実に多年本院編集部に於て欧米の諸書に就き専ら実用に便なるものを撰択せしめたるものなり（句読点、下線は引用者）」とある。本書以前の邦文の洋風建築書とは、上に挙げた2冊を含むであろう。更に業務上、舶載建築書を通覧できる状況にあったことも読み取れる。

こうして舶載建築書から初学者のための実用的な図版を取捨選択して構成されたのが『木造洋館雛形集』である。タイトルに「上巻」とあるが、下巻が上梓されることはなかった。図版は全部で112枚あり、棟飾りや持ち送りなど鋸細工の細部意匠（saw ornament）が過半を占める（図10）。また、各図版の表題がないため、どの部位の細部意匠であるか判別のつかない図版も多い（図11）。筆者が収集した舶載建築書掲載図版との同定を試みたが、残念ながら一致するものを一枚たりとも見つけることはできなかった。今後の研究課題として示しておきたい。

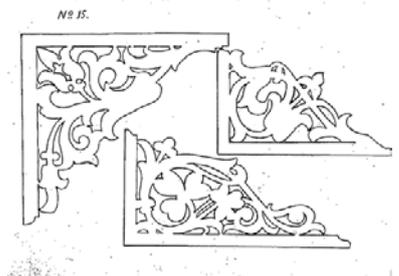


図10 持ち送り雛形

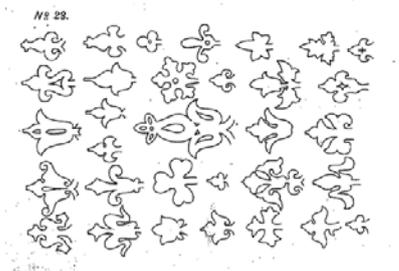


図11 花卉状装飾

### 3-4 三橋四郎編纂『木造洋館詳細雛形集』

三橋四郎は慶応3年江戸に生まれ、明治26年帝国大学工科大学造家学科を卒業した。陸軍技手、臨時陸軍建築部技師、逓信技師、東京市技師を歴任、大正4年没。『木造洋館詳細雛形集』は、逓信省在職中の明治33年2月から9月にかけて全5輯が発行された。各輯は20葉の図版で構成され、細部意匠を主とするが、第五輯は住宅の透視図と平面を多数掲載する。小屋組や継手など構造の図版がある他、継手や仕口には和風造作が認められる。

『木造洋館詳細雛形集』掲載図版と、19世紀後半に米国で出版された建築パターンブック<sup>10</sup>に掲載の図版を比定した一覧を表に示した。全100葉中58葉に引用が確認できた。最も引用の多かった図書はBicknell, *Detail, cottage and constructive architecture.*で、47葉が文字を削除したのみで、図版をほぼそっくりそのまま引用している(図12、図13)。Bicknellの図書は75葉の図版を収録しているので、実に6割強の図版が引用されたことになる。逆に引用されなかった図版は、煉瓦造、透視図を含む住宅、構造図が大半を占める。「木造」かつ「詳細雛形」に拘った取捨選択であったことが窺われる。次に多かったのが、Cummings & Miller, *Architecture.*で、9葉の引用を確認できたが、Bicknellの場合と異なり、複数の図版から必要な図を取捨選択し再構成したものとなっている(図14、図15)。Monckton, *Stair-building in its various forms.*は3葉の図版を再構成し1枚にまとめ(図16、図17)、Nicholson, *The carpenter's new guide.*からは他の図書の図版と組み合わせて1葉を構成したことが推察される。これら4冊以外に図版の引用は管見では確認できなかった。4割強の図版の引用元を特定できなかったが、雑誌に掲載された図版からの引用の可能性もあるため、尚一層の資料の博搜が望まれる。今後の課題としたい。

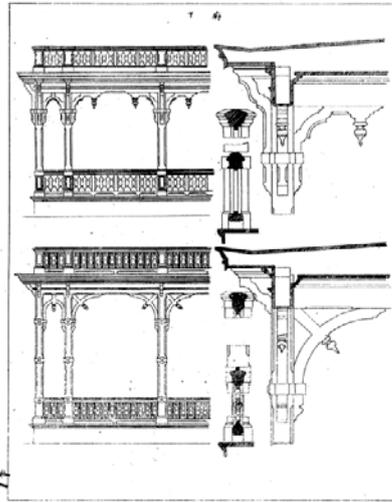


図12 「廊下」

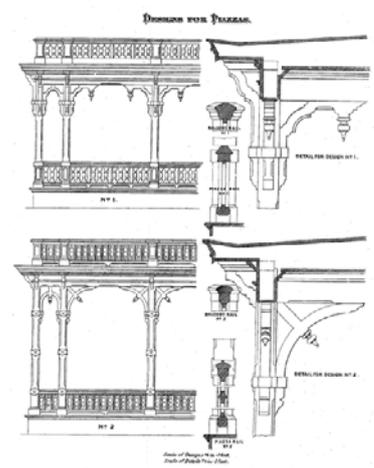


図13 'Designs for Piazzas'

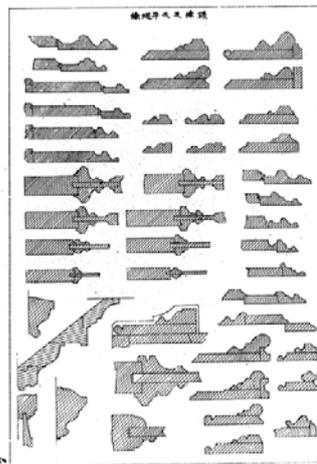


図14 「天井廻縁及額縁」

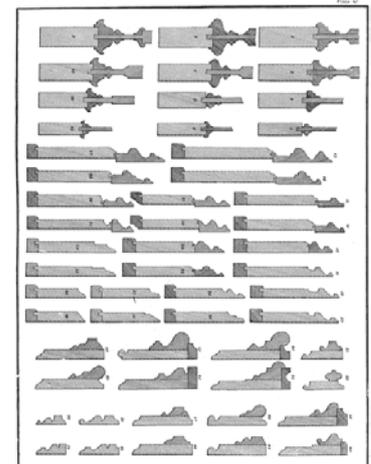


図15 Sections of casing, or architraves for the inside of doors and windows, etc.

ところで、Cummingsの図書は帝国大学図書館に所蔵を確認できる<sup>11</sup>ので、三橋が在学中に閲覧していた可能性はあるが、他の3冊については、管見では帝国大学、内閣文庫、帝国図書館の所蔵は確認できない<sup>12</sup>。陸軍省もしくは逓信省が所蔵していたのかもしれないが、三橋が個人的に入手していた可能性も強ち否定できない。いずれにせよ米国出版のパターンブックを

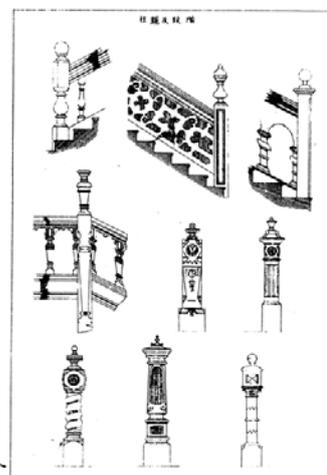


図16 第三輯7「階段及親柱並彫刻」

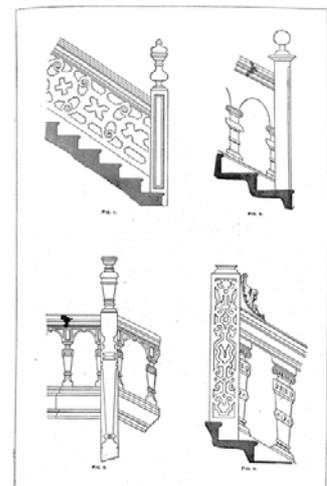


図17 'Designs for newels'

表 三橋四郎著『木造洋館詳細雛形集』と米国出版パターンブック掲載図版との比定一覧

『木造洋館詳細雛形集』			American Pattern Books	
冊	頁	番号 図版名称	Author	Plate Title
第一輯	1	門		
	2	門		
	3	門		
	4	門		
	5	木柵		
	6	木柵	Cummings	*Plate 48 Fig 3
	7	窓	Bicknell	Plate 9 Design for Windows
	8	窓	Bicknell	Plate 10 Designs for Windows
	9	窓		
	10	窓及入口	Bicknell	Plate 20 Details of Door and Window Finish
	11	窓及入口内部	Bicknell	Plate 18 Interior Finish for Doors and Windows
	12	窓及入口内部及腰羽目	Bicknell	Plate 19 Interior Finish for Doors, Windows and Wainscoting
	13	入口内部	Bicknell	Plate 17 Designs for Front Doors
	14	窓背屋	Bicknell	Plate 12 Designs for Dormer Windows
	15	窓出及窓背屋	Bicknell	Plate 13 Designs for Bay and Dormer Windows
	16	窓出及窓背屋	Bicknell	Plate 14 Designs for Oriel, Bay and Dormer
	17	窓飾	Bicknell	Plate 11 Designs for Window Caps
	18	軒先飾及入口庇		
	19	軒先及窓上飾		
	20	軒先時計台		
第二輯	1	蛇腹	Bicknell	Plate 4 Designs for Cornices and Belt Courses
	2	軒蛇腹	Bicknell	Plate 3 Designs for Cornices and Belt-Courses
	3	軒蛇腹	Bicknell	Plate 2 Designs for Cornices and Belt Courses
	4	軒蛇腹	Bicknell	Plate 1 Designs for Cornices
	5	軒蛇腹	Bicknell	Plate 5 Designs for Cornices and Brackets
	6	軒先及柱台	Bicknell	Plate 51 Details of Design - Plate 50
	7	入口屋根及切妻庇	Bicknell	Plate 16 Details of Design Plate 15
	8	切妻飾	Bicknell	Plate 37 Designs for Gables in the Modern Swiss Style
	9	切妻飾	Bicknell	Plate 33 Designs for Gable Ornaments
	10	切妻飾	Cummings	*Plate 29 Designs of Gable Ornament and Verge-Boards
	11	挽飾	Bicknell	Plate 34 Designs for Sawed Ornaments
	12	持送	Bicknell	Plate 6 Designs for Brackets
	13	持送及挽飾	Bicknell	Plate 35 Designs for Scrolls and Brackets
	14	廊下	Bicknell	Plate 25 Designs for Piazzas
	15	廻廊	Bicknell	Plate 23 Designs for Piazzas
	16	入口及廊下	Bicknell	Plate 27 Design of Verandah and Porch
	17	入口	Bicknell	Plate 26 Designs for a Porch with Balcony showing Front and Vestible Doors
	18	入口及窓	Bicknell	Plate 31 Designs for Balconies, Canopies and Porches
	19	柵	Bicknell	Plate 38 Designs for Fences
	20	露台及屋根棟飾	Bicknell	Plate 30 Designs for Observatories and Towers
第三輯	1	階段	Bicknell	Plate 39 Design for Stairs
	2	階段	Cummings	*Plate 44 Designs for Stair Newels Fig.1, Fig.2, Fig.5, Fig.6, Fig.7, Plate 48 Fig.6
	3	階段親柱及手摺子	Bicknell	Plate 40 Designs for Newels, Hand-Rails and Balusters
	4	階段親柱及手摺子		
	5	階段親柱及手摺子		
	6	階段及親柱並彫刻		
	7	階段及親柱並彫刻	Monckton	*p.23 Fig.1, Fig.2, Fig.3, p.26 Fig.6, Plate No.72 Design for Newels
	8	天井蛇腹及天井	Bicknell	Plate 44 Designs for Plaster Cornices and
	9	天井廻縁及額縁	Cummings	*Plate 45, Plate 47
	10	天井廻縁及額縁	Bicknell	Plate 43 Designs for Architraves and Base
	11	銀行受付	Bicknell	Plate 60 Designs for Banking House and Store
	12	商店前飾	Bicknell	Plate 55 Two One-Story Store Fronts
	13	商店前飾	Bicknell	Plate 58 Fittings for Stores
	14	書籍棚	Bicknell	Plate 59 Fittings for Stores
	15	入口	Bicknell	Plate 49 Front and Side Elevations on Swiss Porch etc.
	16	屋根軒廻り	Bicknell	Plate 47 Details of Design Plate 46
第四輯	17	十一	屋根飾	Cummings *Plate 28 Design for Cornice, Curved Roof, and Dormer Window C, D, Fig.4, Plate 33 Designs for Porches Fig.1 D, Fig.3 C, Fig.5, Plate 40 Designs for Observatories Fig.3 C, D, Plate 41 Fig.1, Fig.2, Fig.3, Fig.4, Fig.5, Plate 42 Designs for Balconies, Dormer Windows, Gable Scrolls, &c. Fig.4
	18	十二	屋背窓	Bicknell Plate 29 Details of Design Plate 28
	19	十三	煙突飾屋根窓其他	Bicknell Plate 42 Details of Design Plate 41
	20	十四	露台及挽飾	Bicknell Plate 48 Swiss Summer House
	1	一	屋上塔	
	2	二	屋上飾	
	3	三	屋根飾	
	4	四	棟飾	
	5	五	切妻飾	
	6	六	木屋組	Cummings *Plate 29 Designs of Gable Ornaments and Verge-Boards F, G, H, Plate 30 Fig.1, Fig.2, Fig.3, Fig.6, Fig.7
7	七	木屋組		
8	八	木屋組		
9	九	木屋組		
10	十	木屋組		
11	十一	木屋組		
12	十二	継手		
13	十三	継手仕口		
14	十四	継手	Nicholson *Plate 34	
15	十五	入口屋根	Bicknell Plate 24 Designs for Piazzas	
16	十六	窓飾	Cummings *Plate 10 Designs for Front Entrance Doors for Dwelling-Houses, Plate 34 F, G, Plate 36	
17	十七	軒蛇腹	Cummings *Plate 1 Cornices and Window-Caps for Street Fronts Fig.2 B, Plate 2 Cornices for Street Fronts Fig.2 B, Fig.3 C, Fig.4 D, Fig.5 E, Plate 33 Designs for Porches Fig.1 A	
18	十八	窓上飾	Cummings *Plate 31 Designs for Window-Caps Fig.1, Fig.2, Fig.3, Fig.4, Fig.5, Fig.6, Fig.7, Fig.8, Fig.9, Fig.12, Fig.13	
19	十九	ストープ前飾	Bicknell Plate 45 Designs for Mantels and Mantel with Mirror	
20	二十	炬計		
第五輯	1	一	公館	
	2	二	公館内部	
	3	三	公館	
	4	四	住家	
	5	五	全	Bicknell Plate 21 H. Hudson Holly. Architect NY
	6	六	全	
	7	七	全	
	8	八	全	
	9	九	全	
	10	十	全	
11	十一	全		
12	十二	全	Bicknell Plate 75 Designs for Summer Houses and Sea-Side Cottages	
13	十三	全	Bicknell Plate 50 Designs for Suburban Residence	
14	十四	全		
15	十五	全		
16	十六	全		
17	十七	全		
18	十八	全		
19	十九	全		
20	二十	全		

Author欄のBicknell, Cummings, Monckton, Nicholsonは、それぞれBicknell, A. J., Detail, cottage and constructive architecture. 1873, Cummings, M. F. & Miller, C. C., Architecture. 1868, Monckton, James H., Stair-building in its various forms. 1894, Nicholson, Peter, The carpenter's new guide. 1871を示す。Plate Title欄の\*は、図版の一部のみを引用して再構成している。空欄は、参照元のパターンブックがない、或いは、比定できなかったことを示す。

参照して、三橋は洋風建築の雛形書を編纂、出版したのである。

#### 4. むすび

以上、近世絵様と、19世紀出版の舶載パターンブック、明治中期出版の建築雛形書を対照して洋風建築意匠の受容過程を考察した。明治中期という工部大学校造科学科あるいは帝国大学工科大学造科学科を卒業した建築家が世に出始めていた時代にも拘らず、大学における建築教育が主導した正統派の様式建築ではなく、どちらかといえばアノニマスに近い米国出版のパターンブックが洋風

建築の手本として引用され、広く世間に普及していったことが明らかになった。とりわけ、最高学府で建築学を修めた三橋ですら、木造という限定はつくものの、雛形書を編纂する際に米国出版のパターンブックを引用したことは特筆に値する。日本近代建築の洋風化の過程において、米国出版建築パターンブックの影響は、想像以上に比重が大きかったといえる。

また、近世—近代、西洋—東洋という政治的・社会的・地理的な不連続に関係なく、近代洋風建築の濫觴において、建築デザインを細部に断片化し、類似の形態を比定し、受容したことは間違いなく、近世以前の建築がそうであったように、明治期の近代洋風建築もまた、細部意匠を再構築することにより成立できたと考えうる。明治初期のいわゆる擬洋風建築も同様の構成であり、明治中期に邦文による素性の正しい洋風建築雛形書が出版、普及したことにより、「擬洋風」要素が薄れ、端正な「洋風建築」が巷に溢れることになり得たのであろう。

[注]

1. 例えば、清水重敦『擬洋風建築』（志文堂、2003年）など。
2. 池上重康『明治初期日本政府蒐集舶載建築書の研究』（北海道大学出版会、2011年）。
3. 石田潤一郎「明治のきしみを聴け」（日本建築学会『建築雑誌』、2018年3月、p.46）など。
4. 柳澤宏江『明治時代の建築雛形本にみる洋風意匠の受容に関する研究』（名古屋市立大学学位請求論文、2008年）。
5. 例えば、中谷礼仁「洋式適応規矩術」（『建築史学』第31号、1998年、pp.38-82）や同「ひながた主義との格闘」（『日本建築様式史』美術出版社、1999年、pp.129-154）など。
6. 村田文夫、山田貢一同訳『西洋家作雛形』（1872年）。
7. 文久元年日出藩に生まれ、明治16年工部大学校造科学科卒業。明治22年、大阪で建築事務所を開設し、斎藤賢治と工業夜学校を開く。
8. 大阪の工業夜学校建築学科の講義録として明治23年から月刊誌として建築書院から発行された。明治29年に全3巻からなる合本が出版された。
9. 東京書籍商組合編『東京書籍商組合史』（東京書籍商組合事務所、昭和2年、pp.140-141）。
10. Hitchcock, H.-R., *American Architectural books*. 1976に掲載の19世紀後半出版図書を対象とし、米国議会図書館で閲覧した他、大英図書館においても英国出版の建築書を閲覧した。
11. *Author catalogue of the library of Teikoku-Daigaku (Imperial University.)* Tokyo, 1891
12. Bicknellの図書については、開拓使工業局の蔵書であったことを前掲拙著で明らかにしている。

（発表論文）

池上 重康、永井 康雄、柳澤 宏江「三橋四郎編纂『木造洋館詳細雛形集』と米国出版の建築パターンブック」（日本建築学会大会学術講演梗概集、2018年）（発表予定）